



木の葉が赤や黄色に色づき、風に舞い始めました。ヨチヨチてくてくの子どもたちも、葉っぱを追いかけて駆け出します。両手に葉っぱを握りしめた子どもの嬉しそうな顔！ 私たちにも幸せを分けてくれます。保育室には温かいカーペットを敷きつめました。大人もゆったりしながら、おしゃべりを楽しみましょう。小さな心配も、話してみても共有できただけで、なぜか心が軽くなります。

### 畑の野菜と子どもたち

今年の夏、庭プロジェクトチームの学生たちが育ててくれた野菜たち。多くの子どもたちに野菜がどのように実るのかを見せてくれ、自分の手で収穫して食べてみる体験をさせてくれました。おいしかった記憶は、生涯を支えてくれます。そして、収穫して食べた経験が、次の「自分で育てたい」という気持ちを生み、自分で育てる過程において、植物を世話する苦労や様々なアクシデントを自分で解決するなど、さまざまな体験を通して育っていきます。芽を出し、花が咲き、実がなったときの感動を味わい、それまでの苦労を知った子は、野菜を見て誰かの苦労を想像できます。だから、勝手に採ったり、踏みつけたりすることはしません。食事の際は、感謝して大切にいただきます。

是非、来年の春に種蒔きしてみたいはいかがですか？



野菜や雑草たちは、ままごとでも大活躍しました。

「いつもお母さんがしていることと同じ！」  
そう言っているかのように、大満足の M  
くん(2歳)とHくん(1歳9か月)です。



## 子どもが“楽しい！”と思うこと



大型積み木を積み上げる途中、バランスが崩れて倒れてきました。「きゃー、大変！大変！」大人の慌てようが楽しくて、「ケラケラ、ケラケラ」笑いが止まらないTくん（1歳7か月）。また、ニヤニヤしながら積み上げ、崩れることを待っています。（崩れそうに積み上げます。）そしてまた「きゃー、大変！大変！」を待っています。

10回ほど繰り返したでしょうか。大人たちもたくさん笑わせてもらい、みんなで楽しみました。

いつも最後はみんなで丸くなって  
「さよなら あんころもち またきなこ」  
友達やお母さん、学生のお姉さんと手をつ  
ないで「さようなら」することも、楽しめ  
るようになりました。

輪に加わらなくても、耳で聞いています。  
赤ちゃんたちも、このリズムを耳で楽し  
んでいます。

一緒にできなくても、それでいいのです。



## 初めて赤ちゃんを抱っこしました！

今日は、1年生2人が朝から緊張気味！

「私、赤ちゃんに触れ合うの初めてなんです」

Yちゃん（7か月）のお母さんは「どうぞ、どうぞ」と抱っこさせていただきました。学生はYちゃんを包み込むようにやさしく抱いていました。抱き方や表情から優しさが伝わってきますね。



母親「おむつも替えてみますか？」

学生「いいんですか〜!!!」

まだ、人形でしかやったことない（汗）  
もう一人の学生は、隣で正座して見学していました。



保護者のみなさまが、やさしく学生を育ててくださいます。

## 誰のお母さん？ 誰の子ども？ みんなでみんなの子どもを育てます

「親と子のひろば」は、みんなでみんなの子どもを育てます。他の子を膝に乗せて絵本を読んであげます。作ったご馳走は、友達のお母さんにも食べてもらいます。時々、使いたいおもちゃが重なって、ケンカになるけれど、「ケンカさせてくれて、ありがとう」「いい経験してるね」と、一緒に成長を見守れる仲間です。



## “ととけっこう”のおはなし会 開催しますよ♪

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、親子クッキングや大型バスでの野外保育など、実施できないことが多い中、“ととけっこう”のおはなし会は、何とか実施しようと相談してきました。本学の図書館情報センターは、現在外部の方の利用を自粛しているため、これまで通り図書館で行うことはできません。そこで、保育室へ「出張図書館」してもらうことにしました。

キャリア教養学科の司書課程の学生が「冬」をテーマに選書してくれることになりました。それらの絵本をブックトラックで保育室に運びます。また、大人が楽しめる本も司書さんに選書してもらい、運びます。現在、参加親子を各回 10 組に限定しているため、「おはなし会」は、同じ内容で 2 回開催することにしました。両日とも「親と子のひろば」の開催時間内に行います。詳しいプログラム等は、保育室内の掲示板でご確認ください。



日時：2020年  
1回目 12月2日(水)  
2回目 12月9日(水)  
11:00~11:30  
※「親と子のひろば」の時間内で行います。

場所：桜の聖母短期大学  
保育棟 1階 保育室

「親と子のひろば」のおたよりで、絵本のことを書くのは3回目になります。もう一度「絵本の力」を書きたくなりました。

絵本には、大きな力があるってご存知でしたか？ かわいいだけが絵本ではありません。

子どもは、大好きな人に絵本を読んでもらうことで、自分は愛されていると実感します。大好きな人に触れながら大好きな人の声で読んでもらうのが一番です。愛されていると実感できた子どもは、やる気に満ちてきます。つまり意欲が育つのです。そしてもう一つの力は、子どもが絵本のストーリーの中に入って疑似体験できることです。登場人物の気持ちに自分を重ねてみたり、体験を積み重ねることで、「こんな人になりたい！」と憧れを抱いたり、思考力や感性も育っていきます。

絵本の絵は、子どもが初めて出会う美術です。子どもは、絵を目で読み、耳からストーリーを聞き、絵本の世界を楽しみます。いつもは読んであげる側の大人の皆さんも「おはなし会」のときは、文字を目で追わずに絵だけをご覧ください。そして、演者の声を耳から聞いてください。子どもと一緒に“絵本の世界に入る”体験をすると絵本の素晴らしさを感じることでしょ。

続いて読み方です。絵本は、1対1で読み聞かせてあげるものです。できることなら、1人を膝に抱いて読んであげるのが理想ですが、幼稚園や保育園ではどうしても20人くらいに一齐に読んであげることが多くなります。「親と子のひろば」では、子ども達が絵本を手にとって親御さんに差し出す姿も多く見られます。親御さんもその気持ちを汲んで読んであげています。自分でどんどん出してパラパラめくっている様子も見られます。その子なりの楽しみ方で十分です。字が読める年齢になっても、絵本は自分で読むものではなく、読んでもらうものです。10歳位までは、絵本を読んであげましょう。本の面白さを知ると読書を始め、言葉も知識も増え、学校の成績もぐんぐん上昇間違いなしです！

このように、絵本には大きな力があります。ですから、できるだけ良い絵本を選んであげたいものですね。子どもの心に栄養を与える主食となる絵本、時々はおやつになる絵本、このように考えながら絵本選びをするとおもしろいですよ。

## 自分を愛する心

「奈々子に」 吉野 弘

唐突だが  
お父さんは お前に  
多くを期待しないだろう  
ひとが  
ほかからの期待に答えようとして  
どんなに  
自分を駄目にしてしまうか  
お父さんは はっきり  
知ってしまったから

お父さんが  
お前にあげたいものは  
健康と  
自分を愛する心だ



「生まれてきてくれてありがとう」ただそれだけで幸せだったのに、子どもが成長すると共に親の期待は膨らんでいきます。思春期の学生と過ごしていて、親の期待に答えようと必死に頑張り続けてきて疲れ果ててしまった学生に出会います。頑張っても頑張っても親が満足してくれるところまで辿り着けない。いつまでたっても認めてもらえない。自分は駄目な人間だとまで思ってしまふ。私たち親は、当然のことながら子どもの将来の幸せを願い、期待します。もっと、もっと…と。「ぼくだって頑張っているんだよ」と子どもの寝顔が言っているように思えることがあります。子どもの素敵なところを一つひとつ言葉にして伝えてあげたいものです。

子どもの個性や資質を尊重し、愛情を持って見守り、子どもの自尊感情を育みたいですね。

※自尊感情…自己存在に関する基本的な感情であり、自分を価値ある者であるとしてとらえる肯定的な感情

寒くなってきましたね。

そろそろ、今年もサンタさんの準備が始まる頃かな・・・？

親もドキドキワクワクです！

文責 奥田美由紀

## 今後の予定

12月	2日(水)	おはなし会
	4日(金)	
	9日(水)	おはなし会
	11日(金)	
	16日(水)	
	18日(金)	
	23日(水)	

皆様のご理解ご協力のお陰で、登録者および新規の方がまんべんなく参加できているようです。予約サイトを通して直前のキャンセルも出ていますので、是非、開催日前日に予約状況をチェックしてみてください。空きがありましたら当日朝9時まで予約申し込み可能です！

尚、キャンセルの場合は、予約の際に予約サイトから届いたメールからキャンセルすることが可能です。是非ご活用ください。

12月の予定は、HP および予約サイトに掲載後、ご予約を受け付けます。12月もご予約をお待ちしています。



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

